

取組実績の概要（2 ページ以内）

「口腔の健康を通して全身の健康を守る」とする口腔医学の理念のもとに、口腔医学のスペシャリストとしての歯科医師を養成するため、本学が掲げているディプロマポリシー（以下DP）における学生の到達度可視化を試みている。大学内の様々な教学情報を収集、分析する教育支援・教学IR室を新設し、シラバスに記載された授業の行動目標を分類し、さらに学生の成績情報やその他の指標を活用して学修成果の可視化を行った。可視化されたDP及び学士力に対する学生の到達度等の情報を活用し、教育内容、方法等の改善に継続的に取り組んでいる。以下に大学教育再生加速プログラム事業の一環として本学が取り組んだ主な内容について記載する。

1. 3つのポリシーの改定

学修成果の可視化を実現するためのシステム構築を進める過程で、本学のDPは概括的・抽象的概念としての文言であり、明確な目標となり得ない可能性が考えられた。そこで建学の精神に基づき、本学が育成する歯科医師の具有すべき能力を再考し、卒業時アウトカムとして6コンピテンス65コンピテンシーを策定した。併せて、本学の3つのポリシーについても見直しを行い、卒業時アウトカムとして策定した6コンピテンス65コンピテンシーをDPとし、このDPと相互の一貫性・整合性があり、内容が具体的なアドミッションポリシー（以下AP）、カリキュラムポリシー（以下CP）を策定した。

2. 新シラバスレイアウトに基づくシラバスの作成

学修成果の指標となりうる新シラバスを作成するため、本学の従来のシラバスにはなかった新たに記載する項目として「コンピテンス」、「コンピテンシー」、「教育目標領域（認知、情意、精神運動の3領域）」、「修得難易度」、「授業外学修時間」を追加した新シラバスレイアウトを考案した。また、必須記載事項として「成績評価のフィードバック方法」と「アクティブ・ラーニング項目の有無」を定めた。さらに、評価方法の妥当性検証等に活用するため、分析用項目として、「評価方法」、「評価区分」を追加した。

■従来のシラバスに記載されていた項目					
授業名	科目番号	コマ数	評価責任者	担当教員	授業方法※1
一般目標	教育方法	学習方法	評価	教科書	参考書
授業日	授業担当者	ユニット	学修目標	行動目標	予習の項目
モデル・コア・カリキュラム※2					

■新シラバスから新たに追加された項目					
コンピテンス	コンピテンシー	教育目標領域	修得難易度	必要な授業外学修時間	
評価のフィードバック方法		アクティブ・ラーニング有無		評価方法※3	評価区分※4
(修得難易度・評価方法・評価区分は分析用で学生向けには非表示)					

※1 「授業方法」・・・講義、演習、実習
 ※2 「モデル・コア・カリキュラム」・・・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの項目
 ※3 「評価方法」・・・論述試験、客観試験、実習成果物等の評価を行う方法
 ※4 「評価区分」・・・中間試験、定期試験等の評価を行う区分

3. Web ベースの e-シラバスの構築

従来のシラバスは、Microsoft Word®を利用して作成されていたが、同様の方式で新シラバスを作成した場合、授業の行動目標毎にDP、学士力、教育目標領域を紐づけする際に、入力間違いが多発することが懸念された。また、Word形式で作成されたシラバスは、各種分析に活用することには適していなかった。これらの問題を解決するために、Webベースのe-シラバスを新たに構築した。e-シラバスでは、授業の行動目標とコンピテンシー・教育目標領域等との紐づけ作業を選択形式にするなど、同様の内容をWordで作成することに比べて、利便性を高めたものにした。また、e-シラバスで授業担当者が登録したシラバス情報は、各種分析に活用するのに適した形式でデータベースへ登録される仕組みとした。

4. 教育活動の検証とカリキュラム改定

収集したシラバス情報に基づいて全学年の授業で獲得できる能力を数値化し、本学のCPに即しているかどうかを検証した。DP改定時に想定されていたことであるが、6コンピテンス65コンピテンシーについて、「①特定のコンピテンスの修得に寄与する科目が不足する」という点が明らかとなった。そのほか、「②順次生・連続性の観点から、科目の開講時期に問題がある」という点が明らかとなった。これらを検証しコンピテンス・コンピテンシーの修得をより確実なものとするために、科目の開講時期の変更や新設科目の配置を行った平成30年度以降のカリキュラム改定を行った。

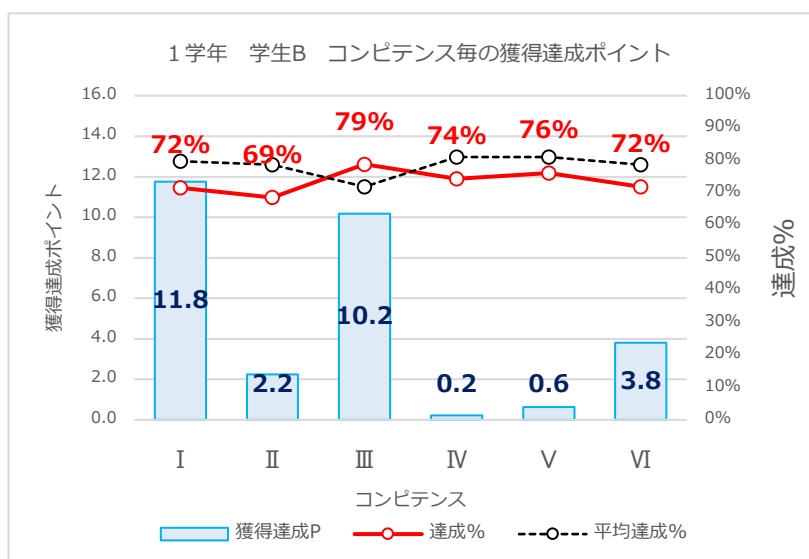
5. DPおよび学士力の到達度の可視化

授業科目の単位数と行動目標の修得難易度を用いて、獲得した能力（各DP・学士力）数値化の際、基準となる値である最大達成ポイントを算出する。その後、最大達成ポイントと科目の評点を用いて学生の獲得達成ポイントを算出する。算出方法を以下に記載する。

$$(\text{最大達成ポイント}) = (\text{単位数}) \times (\text{行動目標の修得難易度}) \div (\text{科目の行動目標の修得難易度合計})$$

$$(\text{獲得達成ポイント}) = (\text{最大達成ポイント}) \times (\text{評点}) \div 100$$

この方法で数値化を行うことで、科目毎の最大達成ポイント合計が単位数と等価になることから、単位数の等しい科目は等価となる。これにより科目間の平準化を図った。獲得達成ポイントの出力イメージを以下に示す。



上記の他、大学内で収集した教学データに基づいて、教員・学生に効果的な情報提供・フィードバックを行うなど、積極的に教育改善に取り組んでいる。これらの取組を行った結果、本事業の必達指標の達成度は下記のとおりとなった。

【必須指標の達成度】

	平成 26 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
退学率	1.2 %	0.0 %	2.4 %
プレースメントテストの実施率	100 %	100 %	100 %
授業満足度アンケートを実施している 学生の割合	100 %	100 %	100 %
授業満足度アンケートにおける授業満足率	84 %	85 %	94.5 %
学修行動調査の実施率	87.8 %	100 %	98.5 %
学修到達度調査の実施率	0 %	100 %	100 %
学生の授業外学修時間	6.4 時間	12 時間	14 時間
学生の主な就職先への調査	有り	有り	有り